

佳作

ぼくの大好きなお父さん

大阪府
近畿大学附属小学校一年

岸田優星

ぼくのお父さんは、とても優しく、何でもできます。とくに、おりょうりが上手です。

この間の母の日には、お母さんのおでかけ中に、お父さんといっしょに、たくさんのごちそうを、作って、お母さんがびっくりするくらいおいしくできました。ぼくのお父さんは、お母さんが、むりだよということでも、がんばってくれます。前に、いちごがりに行った時に、とってもおいしいいちごがいっぱいとれて、ぼくが、いちごうどんが、食べてみたいなど言ったら、お母さんは、そんなのないよむりだよと言って、わらっていただけだったけど、お父さんは、じゃあ、作ってみようかと言って、いちごを、つぶして、なにか白いこなと、こねこねて、いちごうどんを、作ってくれました。それは、おもちみたいでとってもおいしかったです。また食べたいです。ぼくは、お父さんといると、何でも出来るような気

がします。今、夏休み中なので、行ける日は、お父さんと、夜のマラソンに行きます。はじめは、小さいグラウンドを、まわるだけで、はあ、つかれた、もうだめだと言っていたほくだけど、お父さんが、がんばれば、夏休みが終わるころには、こっちの大きいグラウンドの方を、いっしょにまわるようになれるよと、言っていてその時は、小さいグラウンドの方でも、こんなにつかれているのに、むりだよ思ったけど、今では、お父さんと、大きい方のグラウンドを、まわるようになりました。はじめはむりだよ、思っていたことでも、おとうさんといっしょにがんばれば、何でもできるよになる気がしました。これからも、お父さんといっしょにいろんなことを、がんばっていつか、ぼくも、お父さんみたいになりたいです。お父さん、いつもありがとうございます。